

学びからつながりひろがる地域脱炭素化の取組 ～ 阪南の豊かな海のアマモ場から～

大阪府 阪南市



共創による新しい価値の創造

HANNAN

SDGs未来都市



「海と山が出会うまち」

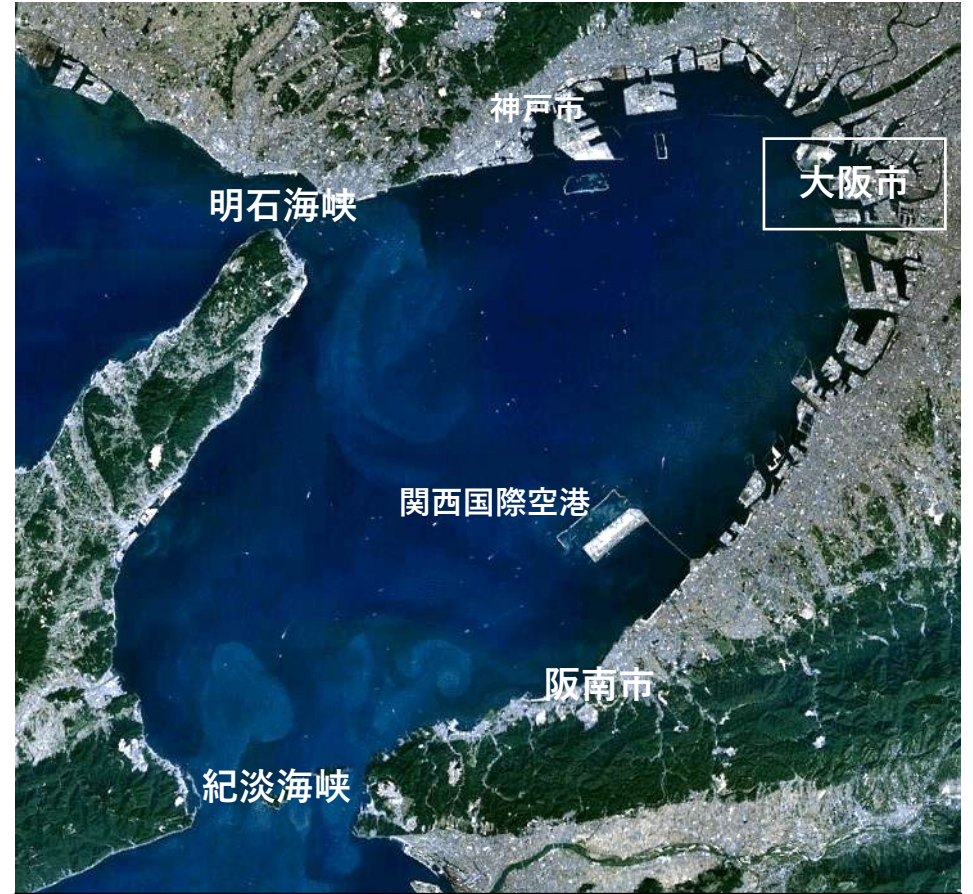
大阪市から約45km(電車で40分)

和歌山市から約10km

関西国際空港から20分

人口 50,778人(令和5年12月末時点)

面積 約36km²(約60%が和泉山脈の山林)



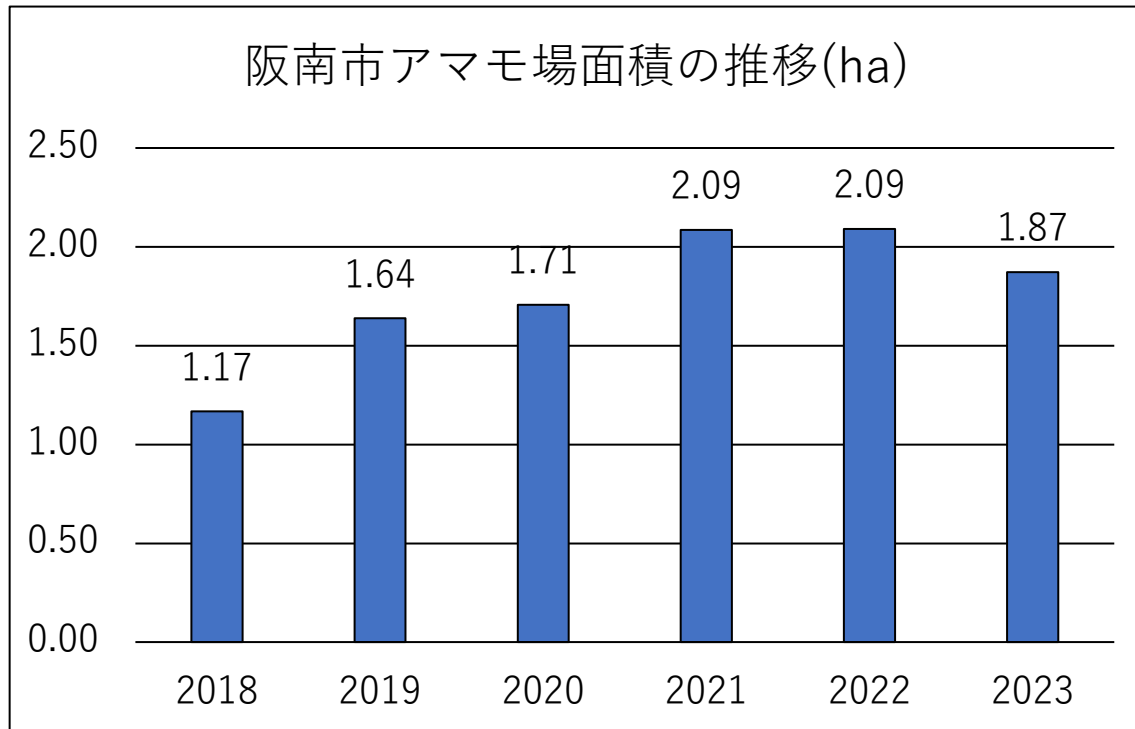
衛星ランドサットからみた大阪湾



阪南市
イメージキャラクター
はなてい

阪南市のアマモ・アマモ場

- ・ 阪南市におけるアマモ・アマモ場の保全・再生活動は、2005(平成17)年度よりNPO法人により始まる
- ・ また、2009(平成21)年夏休みに小学校児童が行ったアマモについての自由研究「アマモin西鳥取～自生アマモの観察～」が、アマモ・アマモ場の保全・再生活動のひとつのきっかけとなる



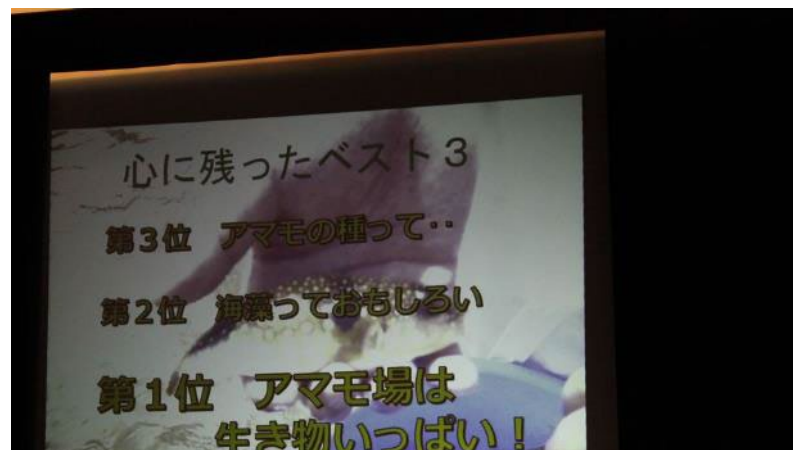
全国アマモサミット2018in阪南

2018(平成30)年11月2日～4日開催

3日間で、延べ1,450名が来場



西鳥取小学校・関西大学北陽高校



舞小学校



下荘小学校



海洋教育パイオニアスクールプログラム「地域に根ざした海洋教育」

学年ごとに「海に親しむ」「海を知る」「海を利用する」「海を守る」を
小学校の授業に取り込み、ストーリー性のある活動を、地域全体で支えていく

1年生・2年生 海に親しむ

3年生・4年生 海を知る

5年生 海を利用する

6年生 海を守る



| 2019年度より | 2020年度より | 2021年度より | 2023年度より |
|-------------------------|----------|----------|----------------------------|
| 西鳥取小学校 下荘小学校 舞小学校 | 尾崎小学校 | 上荘小学校 | 東鳥取小学校 朝日小学校 桃の木台小学校 |

2023(令和5)年度より市内全小学校・全学年で、環境・海洋・森里川海の繋がりをテーマに、探求型協働学習を実施



阪南市教育委員会
阪南市海洋教育推進協議会

海洋教育副読本



連携・参画・協働

一般財団法人セブン-イレブン記念財団×阪南市



阪南セブンの海の森

阪南市のアマモ場再生及び沿岸清掃活動を通じ、森里川海の保全に貢献するとともに、地域社会との交流を実施



2023(令和5)年6月3日 第10回活動



2023(令和5)年12月2日 第11回活動

関西エアポート株式会社×阪南市



大阪湾の海の森(藻場)保全・再生プロジェクト

- ・地域と空港間での海藻移植や藻場造成のための知見の共有により大阪湾の価値の向上を図る
- ・海洋環境向上に向けた次世代への教育に共に取り組む



関西国際空港から阪南市沿岸域への海藻移植



伊丹市×飯南町×阪南市 ×(株)ソーシャル・エックス



脱炭素社会実現に向けた地域循環共生に関する連携協定

互いの地域資源を生かし、補完し支え合う「地域循環共生圏」

- ・全国初カーボンニュートラル庁舎の実現
- ・環境保全活動による市民交流の促進
- ・社会課題をテーマにした官民の新規事業創出

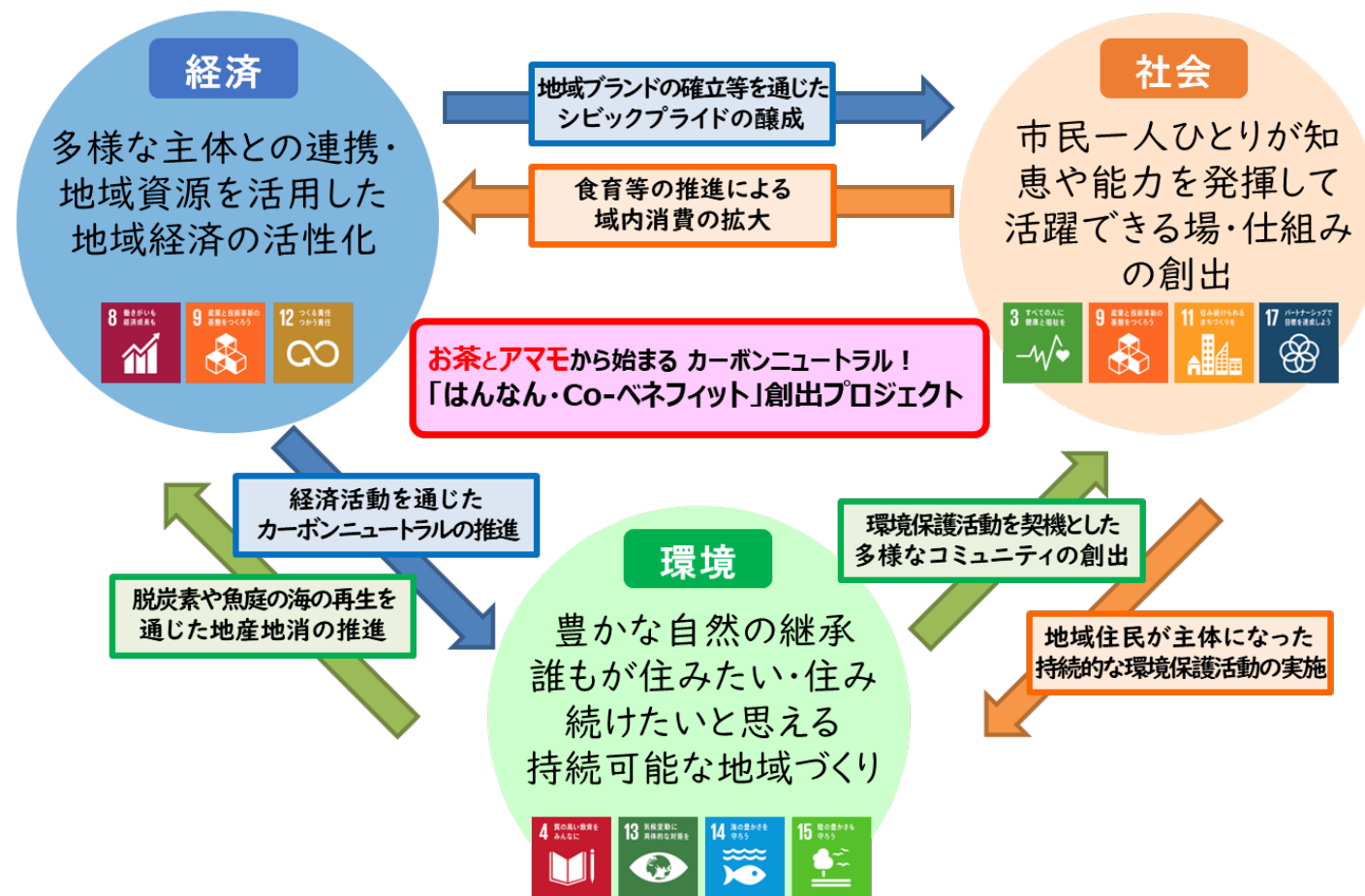


環境保全活動への参加による市民交流

SDGs 未来都市・自治体SDGsモデル事業

2022(令和4)年 「SDGs 未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定

共創による新しい価値の創造 カarbonニュートラルの先にあるCo-ベネフィット型未来都市に向けて



30by30 自然共生サイト

「阪南セブンの海の森」が、令和5年度前期自然共生サイトとして認定
一般財団法人セブン-イレブン記念財団、阪南市、NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター



30by30
2030年までに陸と海の30%
以上を保全する
新たな世界目標

全国122か所のうち、
沿岸域の自然系海岸(藻場)
として、全国唯一の認定



Jブルークレジット

JBE(ジャンプブルーエコノミー技術研究組合)2023(令和5)年度第1回公募プロジェクト ～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」

プロジェクトの特徴

- ・ こどもたちを基点とした海洋環境保全の意識醸成や周辺への拡大
- ・ 生物多様性の向上や生物資源の増加、漁業を含めた地域の活性化
- ・ クレジットは、小学校による継続的な活動を推進していくために活用
- ・ 購入企業の参画・参加による活動の活性化にも期待

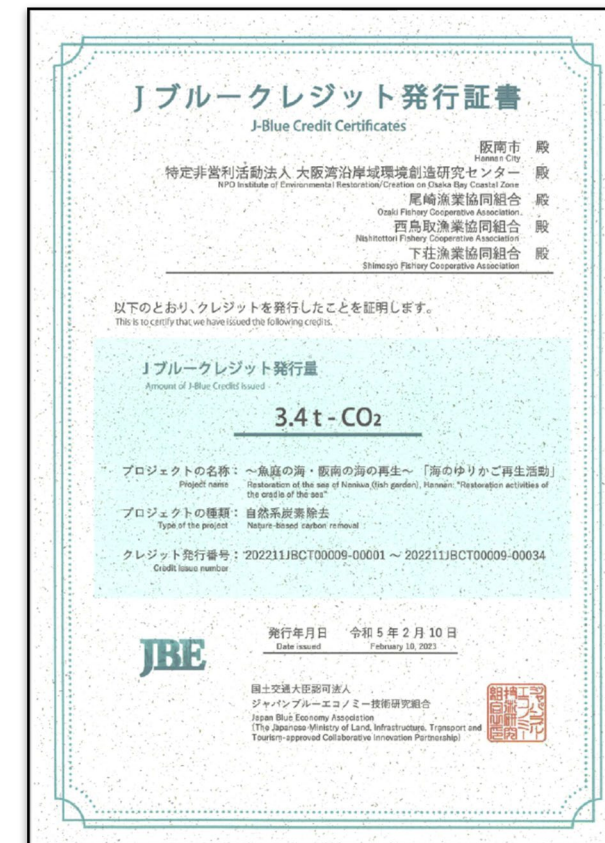


3.4t-CO2を公募

⇒ 3団体、総口数12口

(購入企業・団体)

- ・ (株)セブン-イレブン・ジャパン
- ・ メイワフォーシス(株)
- ・ 伊丹市



はんなん海の学校

令和5年度 阪南市市民協働・共創事業提案制度(市設定テーマ部門)

「海洋教育」をSDGsの理念を踏まえた持続可能な教育の取組とするため、学校教育のみならず社会教育として「海洋教育」を地域に根付かせる

→子どもや若者を中心に、海洋教育に関する専門的な内容や体験などを学ぶ場を提供

事業期間：2023(令和5)年9月～2027(令和9)年3月

- ・「はんなん海の学校」の創設
 - ・事業実施に係る企画運営会議の開催
 - ・海洋に関わる講義、体験活動の実施
 - ・活動発表会等の開催
 - ・その他、海洋に関わる活動の実施
- を、協働事業として実施



第1回全国海の再生・ブルーインフラ賞 みなと総研賞

令和6年2月19日

主催：一般財団法人みなと総合研究財団、後援：国土交通省
沿岸域における環境再生、普及啓発、青少年の育成のほか、ブルーインフラの保全・再生・創出に取り組む団体活動であって、社会貢献の実績と成果を有するものを対象

「はんなん海のゆりかご再生活動」

- ・大阪府下で唯一残された自然の藻場に広がる多様な生物生息場を貴重な財産として、行政・市民・NPO・企業等が協働で保全・活用し、次世代へ継承する



【みなと総研賞】はんなん海のゆりかご再生活動

応募者：阪南市
協力者・関係者：尾崎漁業協同組合、西島取漁業協同組合、下荘漁業協同組合、NPO法人大阪湾沿岸環境創造研究センター、大阪公立大学、株式会社漁師鮮度、チーム☆ガサ

実施場所：阪南市全域のアマモ場
取組期間：2005年4月～（18年10ヶ月）（2024年1月末時点）

大阪府下で唯一残された自然の藻場に広がる多様な生物生息場を貴重な財産として、行政・市民・NPO・企業等が協働で保全・活用し、次世代へ継承する

令和5年度前期自然共生サイト認定
全国122カ所のうち、沿岸域の自然系海岸（藻場）として、全国唯一の認定

阪南市尾崎町八丁目地先
阪南市尾崎三丁目地先
阪南市新町地先
阪南市鳥取地先
阪南市箱作地先

海洋教育パイオニアスクールプログラムを活用
市内全小学校・全学年で、環境・海洋・森里川海の繋がりをテーマに、探求型協働学習を実施
はんなん海の学校を創設
中学生から子育て世代を対象に、海洋教育に関する専門的な内容や体験などを学ぶ場を提供

海洋教育創読本

今の大人たちはそれぞれの立場で自分のできることを、未来の大人となる今の子どもたちに
今の子どもたちは大人になったとき、自分のできることを未来の子どもたちに



ほかにも．．．（こどもたちの活動発表、連携・参画・交流・協働）



G20大阪サミット
配偶者プログラム



Amamo2023



CNAC第18回全国フォーラムin阪南

- ・大阪湾生き物一斉調査（2015～）PROLOGIS
- ・人と海・人と人をつなぐ活動ー出前授業ー（2017～2019）関西大学北陽高等学校
- ・漁業と魚食がもたらす魚庭(なにわ)の海再生プロジェクト（2017～2021）大阪府立大学(現大阪公立大学)他
- ・横浜ブルーカーボンクレジット（2020・2021）横浜市
- ・GreenGiftプロジェクト（2023～）東京海上日動火災保険株
- ・ブルーカーボン促進のための栄養塩供給管理プロジェクト（2023～）JBE／BERG など

阪南でのアマモ・アマモ場の保全・再生は、こどもたちが主人公
大人はこどもたちをそれぞれの立場からサポートする

こどもが地域を愛することで、大人が気づき、地域を育てる
こどもたちが大人を動かし、それが地域へ・世界へ広がっていく

「今の大人たち」はそれぞれの立場で自分のできることを、
「未来の大人」となる「今のこどもたち」に
「今のこどもたち」は大人になったとき、
自分のできることを「未来のこどもたち」に

キーワード(期待すること)

○学校教育として(こどもたちを主人公とした、アマモ・アマモ場の保全・再生)
⇒(教育機関として)専門的視点からの助言、(学生の)参画

○保全と経済の共存・循環(自然共生とカーボンクレジット・ブルーエコノミー)
⇒論理的ストーリー、制度整備に向けた発案・提言

○フィールドを活かす、データベース化・プラットフォーム化(見える化・評価)
⇒産と現場・産と官をつなぐ、フィールドをベースとした次世代の人材育成・リスキリング